

No.	事業名	事業計画	事業目的	財源
1. ボランティアコーディネーション事業				
1	ボランティア活動希望者への活動のマッチング	・ボランティア活動希望者への相談対応と活動へのマッチングの実施	「ボランティア活動をしたい」という人に活動の場を紹介することで、意欲を持つ市民の社会参加を促進するとともに、ボランティアに協働を求め人や組織と市民とのコーディネーションを進める。	大阪市受託
2	ボランティアの応援を求める個人、団体、施設等へのコーディネーション	・ボランティアの応援を求める個人、団体、施設等への訪問、面談、各種関係機関との連携。 ・受け入れ団体等へのボランティアマネジメントのアドバイス、相談など	制度では対応できない等ボランティアの応援が必要な個人に寄り添い、相談者の自立や社会参加等を支える。また、施設や団体などでボランティアを募集する際のサポートを行う。	大阪市受託
3	ケース共有会・ケース検討会	・「ケース共有会」「ケース検討会」の開催 ・ケースからのテーマ別研究	職員間で対応内容について共有を行い、専門家のスーパーバイズを受けることで、相談対応力および対応の質の向上を図る。	大阪市受託
4	【行動宣言】【拡充】インクルーシブボランティア	・インクルーシブボランティアの普及啓発	障害があるなど、ボランティア活動に参加するのに制約がある人も参加できる「インクルーシブボランティア」を推進することを目的として、コーディネーターの育成やプログラム開発などの環境整備を行う。	自主（2022年度は「大阪府福祉基金」申請中）
5	【行動宣言】【拡充】多様な関係機関とのネットワーク構築	・大阪市内のボランティアコーディネーターのネットワーク構築	①よりきめ細やかな相談対応や適切なボランティアコーディネーションの実施、②平常時から災害支援・防災に関する課題を共有し、実災害時に各区の災害ボランティアセンターの運営支援や被災地域のスムーズな復旧・復興に向けた活動の協働実施、③市内の社会福祉協議会やテーマ型NPO、専門機関等のコーディネーター同士が情報共有や日常業務での連携の実施ができるネットワークを構築する。	大阪市受託
6	はじめてのボランティア説明会	・「はじめてのボランティア説明会」の開催	ボランティアに関心があるがどのように始めたらよいかわからない人や、まずは学びたいという人が、自分に合った活動を見つけるきっかけをつくり、参加のすそ野を広げる。	大阪市受託
7	ICTツールを活用した情報発信	・ICTツールを活用した情報発信（Twitter、動画作成、チャット相談等）	各SNS媒体の特性、ユーザーのニーズに応じた最適な媒体を使い分け、ボランティアに関する情報の発信を行う。	大阪市受託
8	多種多様なボランティア活動メニュー開発	・多種多様なボランティア活動メニューの開発	時間の制約がある、コミュニケーションが苦手等、ボランティア活動を希望する人々の多様なニーズに応じた多種多様なメニューを開拓し、誰でも気軽に活動できる環境をつくることで、ボランティア参加のすそ野を広げる。	大阪市受託
9	社会課題を知るための基礎講座「90分 de ○○REAL」	・社会課題を知るための基礎講座「90分 de ○○REAL」の実施	活動に一步踏み出すまでには至らないが講座参加なら可能という人を対象に、活動希望者の活動への意欲の向上、潜在層の活動に向けた後押しやきっかけづくりを行い、ボランティア活動に関わるハードルを下げる。	大阪市受託
10	ゆるボラ（ゆるいボランティア）	・「ゆるボラ（ゆるいボランティア）」の運営（ボランティア体験プログラム、交流会等の実施）	ボランティア活動や社会貢献活動等に興味・関心がある人が、活動に参加するハードルを下げ、安心して活動ができるよう、ゆるやかにつながるサークル（コミュニティ）を立ち上げ、運営する。	大阪市受託
11	ボランティア受入側のボランティアコーディネーション力の向上	・ボランティア受入側のボランティアコーディネーション力向上のため研修・講座の実施	NPO・施設・地域組織等のコーディネーター（リーダー層）を対象に、ボランティアコーディネーション力向上研修・講座を実施する。	大阪市受託
12	災害ボランティア説明会	・災害ボランティア説明会の開催	災害ボランティアに関心があるが、アクションにつがっていない人を中心に、被災地に行く前に、災害ボランティアの基礎知識や活動内容などを学べ、知ることができる機会を提供する。	大阪市受託
13	災害ボランティア入門セミナー	・災害ボランティア入門セミナーの開催	災害ボランティア活動をやってみたい人を対象に、現地に行くのに必要な準備や安全対策、被災地での具体的な場面におけるボランティア活動について、講義とワークショップで学ぶ機会を提供する。	大阪市受託
14	ボランティアスタイル	・「ボランティアスタイル」事業の推進	ボランティアに関心があるがどのように始めたらよいかわからない人や、まずは学びたいという人が、自分にあった活動を見つけられるきっかけをつくり、参加のすそ野を広げる。	自主・NHK歳末たすけあい助成金
15	関西人のためのボランティア活動情報ネット（KVネット）	・「関西人のためのボランティア活動情報ネット（KVネット）」によるボランティア情報の発信 ・メルマガ「関西人のためのボランティア情報」の編集・発行 ・マスコミへの活動情報提供（読売新聞わいず倶楽部、毎日新聞）	・インターネットを活用したボランティアコーディネーションのシステムを運営し充実させる。 ・サイト掲載情報を二次活用し、より募集情報に触れる機会を提供する。	自主・NHK歳末たすけあい助成金
16	将来の地域共生社会を担う人材の育成	・大阪市内の中高生への福祉教育プログラムの提供	自身も地域共生社会の住民のひとりとして支え合うことの大切さを理解することを目的とし、大学生の参画を得ながら、訪問授業、様々な違いを持つ人と一緒に取り組める福祉・社会貢献活動等のプログラムを提供する。	大阪市受託
17	ボランティアコーディネーター養成講座（新任向け）	・第48期「ボランティアコーディネーター養成講座（新任向け）」の企画・実施	新任ボランティアコーディネーターが基礎的な理念から具体的な実践ノウハウを学び、日々のボランティアコーディネーションに生かせるよう、講義や演習での教育プログラムを提供する。	自主（共催：日本ボランティアコーディネーター協会）
18	ボランティアコーディネーション力3級検定・直前研修	・「ボランティアコーディネーション力3級検定」直前研修と検定の実施	ボランティアコーディネーションに関する正しい知識の普及啓発を行い、広く理解を促す。	共催・受託（日本ボランティアコーディネーター協会）
19	「福祉ボランティアコーディネーション業務委託」評価委員会	・「福祉ボランティアコーディネーション業務委託」評価委員会の開催	第三者の評価委員から客観的に事業への助言や方向性についての示唆を得ることで、事業の質の担保・向上を図る。	大阪市受託
20	ボランティア保険	・ボランティア保険の受付事務	パートナー登録団体への活動支援の一環として、ボランティア保険の受付事務を行い、各団体の活動を支援する。	自主
2. 市民力向上（市民学習・研修）事業				

No.	事業名	事業計画	事業目的	財源
21	CANVASよるがく	・「CANVASよるがく」、「CANVASカフェ」（会員自主企画）の開催	社会課題に気づき、協会のミッションに賛同する仲間（個人会員等）が増え、市民活動の広場と砦としての協会とCANVAS谷町が活性化することに加え、財源確保にも寄与する。	自主
22	“裁判員ACT”裁判への市民参加を進める会	・「裁判員ACT公開学習会2022」の企画実施 ・傍聴カフェ／傍聴カフェオンラインの開催／ウォロ連載（22年度中に連載終了） ・裁判員経験者の話を聴く会／ミニ学習会の開催 ・ACT通信の発行／ACT公式FacebookおよびTwitterの運用	市民が自分の問題として司法について考え、様々な問題解決に取り組む社会をめざし、市民の、市民による、市民のための司法を実現する。	自主・NHK歳末たすけあい助成金
23	【行動宣言】『市民セクターの次の10年を考える』研究会～社会的孤立の抑制と解消への道程	・「社会的孤立の抑制と解消への道程」をテーマに実施してきた研究会を受け、提言策定ワークショップを開催し、提言にまとめる。	「社会的孤立の抑制と解消への道程」をテーマに、市民セクターの次の10年を展望する視座と市民セクター全体のバージョンアップをはかる戦略を明確化することを目指す。	自主・NHK歳末たすけあい助成金
24	「リサーチ&アクションセミナー」	・「リサーチ&アクションセミナー」の企画実施	NPO職員を中心とする市民セクターの担い手の研究力量の向上を図る	自主・NHK歳末たすけあい助成金
25	講師派遣	・全国各地で開催されるボランティア・市民活動関係の講座・研修などへの講師派遣と講座企画の受託。	これまで協会が蓄積してきたボランティアコーディネーションの専門性や市民参加のまちづくり、NPO支援のノウハウを伝え、市民活動の推進と支援につなげる。協会を支える大きな収入源として、財源を確保する。	自主
26	インターンシップ・職場体験の受け入れ	・大学のインターンシップ生や企業の職場体験の受け入れ（大阪大学、甲南女子大学、（株）エンカレッジなど）	協会の大事にしている事業である「人づくり」を目的として、学生等に協会事業に関わる経験を通して、ボランティアコーディネーションや社会課題にふれるきっかけづくり、多様性への理解などを伝える機会とする。	自主
3. NPO・団体支援事業				
27	NPO運営などの相談対応、コンサルティング	・NPO運営などの相談対応、コンサルティングの実施	NPOの運営に関するあらゆる相談に対し、個別に相談対応もしくはコンサルティングを行い、その課題解決のサポートを行う。	自主・NHK歳末たすけあい助成金
28	はじめてのNPO説明会	・「はじめてのNPO説明会」の開催	NPOの設立やNPO法人の取得を目指している人・団体向けに、説明会形式でノウハウや考え方を伝え、相談者が次のステップに踏み出せるようサポートを行う。	自主・NHK歳末たすけあい助成金
29	NPO関連セミナー	・NPO関連セミナーの実施	市民活動・NPO関連の情報提供やノウハウ獲得を目的としたセミナーや、時宜に応じた講座等を開催し、関係団体等の学びを深める。	自主・NHK歳末たすけあい助成金
30	メルマガ「NPOばいす」	・メルマガ「NPOばいす」の編集・発行	協会主催事業の情報、助成金・支援制度の情報、パートナー登録団体の情報（主催行事や人材募集など）の提供を行い、メルマガ登録者に情報に触れる機会を与えるとともに、それらの情報をPRする。	自主
31	後援名義の提供・協力	・後援名義の提供・協力	希望する団体向けに、後援団体として協会名を記載する後援名義の提供・協力をし、PRに協力する。	自主
32	パートナー登録制度	・「パートナー登録」制度の運営	協会が推進する市民参加性、社会提言性、情報公開性という3つの視点を大事にするNPOを、市民活動を促進するパートナーとして連携を図る。	自主
33	寄付・寄贈のコーディネーション	・寄付・寄贈のコーディネーションの実施	パートナー登録団体を対象に、企業や個人が不要となった物品の寄贈や、寄付の申し出をつなぎ、団体の必要備品や財源の獲得に貢献する。	自主
34	助成金・賞の推薦協力	・助成金・賞の推薦協力の実施	パートナー登録団体を対象に、団体が申請したい助成金・賞に対して推薦コメント等を提供し、助成金採択や受賞に貢献する。	自主
35	市民活動スクエア「CANVAS谷町」	・会議室、テレワークブースの貸し出し提供 ・コラボエリアの運営：市民活動団体へのコーディネーションデスク、フレックスデスク、ロッカー、レターボックスの貸し出し。印刷機利用提供、利用団体への運営助言など。 ・全体的な利用率アップの促進 ・会議室予約受付の完全オンライン化【新規】	市民活動がより推進するために必要な機能（デスク、ロッカー、レターボックス、貸会議室、テレワークブース、印刷機など）を安価で貸し出すとともに、拠点として団体同士の交流等を生み出していく。	自主
36	情報交流エリアの整備および活性化	・チラシ、冊子、ポスター等の配架ルールを再整理する。 ・届いた情報を速やかに配架できるようにする。	「CANVAS谷町」に届いたチラシ・ポスター等を来館者が見やすくなるよう配架し、市民活動・ボランティアに興味を持って参加する動機となるよう促す。	自主
37	【行動宣言】場を必要とするセルフヘルプグループ等への支援	・財源が厳しいセルフヘルプグループ等からの相談に対し、随時対応	場を必要とするセルフヘルプグループ等への支援を目的とした「自助グループ利用応援募金」で集まった寄付を元に、必要とするセルフヘルプグループへ助成を行う（パートナー登録料の半額助成）。	自主
38	魅力ある「CANVAS谷町」づくり事業	・パートナー登録団体の紹介カードを作成・更新する（新HP掲載と連携する） ・カフェコーナーの利便性を向上する（飲み物の衛生管理のグッズ設置、掲示ボードでの双方向のコミュニケーション、マシンの使い方説明掲示など）	市民活動拠点として人・団体の繋がり促進（親しみやすい「CANVAS谷町」の実現）およびCANVAS谷町の利用価値向上を目的とする。	自主
4. 災害支援・防災事業				
39	災害発生時の被災地支援	・他所での災害発生時のボランティア活動支援スタッフ派遣	被災者・被災地のスムーズな復旧・復興のためのささえあいをつなぐことを目的として、職員とボランティアをチームにして、実災害時の災害ボランティアセンター等に運営支援者を派遣する。（災害発生時）	自主
40	【行動宣言】災害時のスペシャルニーズ支援	・災害時の要配慮者（スペシャルニーズをもつ人）支援に関する啓発活動	災害時に孤立しがちな要配慮者（スペシャルニーズをもつ人）を支える仕組みを広め、深める。	自主
41	災害時に動ける人づくりと実災害での支援事業	・平時は情報共有し、災害情報、活動情報など情報交換。 ・災害が発生した時は、チームとして災害ボランティア活動を行う。【随時】 ・災害支援委員会と連携し、年2回程度の災害支援の研修や訓練の機会を設ける。（オンラインでの情報共有など）	・災害支援についてのアソシエーターの理解を深め、育てる（参加拡大）。 ・実災害での支援活動を行う。	自主

No.	事業名	事業計画	事業目的	財源
42	近畿ろうきんパートナーシップ制度	・近畿労働金庫との共催企画の実施（災害をテーマに実施）	地域課題の解決や災害支援活動の充実を目的として、近畿労働金庫と協働体制を構築する。	自主・近畿労働金庫助成
43	広域避難者の支援活動	・まるっと西日本主催「3.11を想う会」の共催 ・「ホットネットおおさか（大阪府下避難者支援団体等連絡協議会）」への参加	関西に暮らす広域避難者と出会い、避難生活において必要だった支援を知ることで、大阪・関西が大規模災害で被災したときの備えの一助とする。	自主
44	協会BCP（事業継続計画）と災害支援方針の策定	・協会BCP（事業継続計画）の策定と災害支援方針の改定	大阪が被災したとき、災害時モードでの事業継続および災害救援活動をすみやかに始動することを目的に、予め意思決定方法や人材と資金の配分計画、情報システム等の整備をBCP計画および災害支援方針に定める。	自主
45	災害支援委員会	・災害支援委員会の運営	多様な主体の連携と市民の力で「だれひとり取り残さない災害支援」を目指す	自主
5. 企業市民活動推進センター事業				
46	企業市民活動などの相談対応、コンサルティング	・企業市民活動に関する相談対応、「はじめてのCSR・社会貢献講座」の開催、コンサルティングの実施	CSR、企業の社会貢献、サステナビリティ、ESG、SDGs等、企業市民活動全般に関する相談に対し、個別に相談対応や説明会の開催、もしくはコンサルティングを行い、その課題解決のサポートを行う。	自主
47	「積水ハウスマッチングプログラム」	・市民活動団体への助成プログラム「積水ハウスマッチングプログラム」の協働事務局を受託。	積水ハウスが行うマッチングギフト形式の助成の事務局を協働で実施。ESG経営のSocialの活動の一環として、サステナブル社会の構築に寄与する社会的活動、及び国連が進める社会課題の解決（SDGs）につながる市民団体の事業を応援する。	積水ハウス（株）受託
48	「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」	・「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」助成プログラム事務局の運営	阪急阪神ホールディングスの社会貢献活動「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」市民団体助成プログラムの事務局として、阪急阪神沿線で「地域環境づくり」や「次世代の育成」に取り組む市民活動団体への助成を行う。	阪急阪神ホールディングス（株）受託
49	阪神高速道路 未来（あす）へのチャレンジプロジェクト	・「阪神高速道路 未来（あす）へのチャレンジプロジェクト」助成プログラム事務局の運営	市民団体との協働による社会課題の解決に取り組み、地域・社会の持続的発展及びSDGs達成へ貢献することを目的とする。	阪神高速道路（株）受託
50	【行動宣言】【拡充】タケダNPOサポートプログラム（第2期）	・武田薬品工業との協働による長期療養の子どもや家族を支援するNPOの組織基盤強化支援	関西に拠点を置く保健医療分野の市民活動団体が、長期療養の子どもたちとその家族が直面している課題の解決に向けて、持続性・発展性のある支援ができるよう広く啓発を行うと同時に、団体同士のネットワーキングを行う。	武田薬品工業（株）寄付
51	【行動宣言】【拡充】SAPジャパン社会貢献プログラム支援	・社会的孤立状態になりやすい子どもたちへのIT支援事業の実施	SAPジャパン西日本支社のCSRプロジェクトとして、社会的孤立状態になりやすい子どもたちに、社会人との交流や学びの機会を提供し、将来への希望を持つことができるよう、IT支援事業を行う。	SAPジャパン（株）寄付
52	企業向けの講座・研修等の企画受託	・企業向けの講座・研修等の企画の受託を目指す。	企業や労働組合等が実施する社員向けボランティア講座や研修の企画を受託し、受講する社員が行動する市民となる一助となるよう促すとともに、協会の財源獲得も目指す。	依頼企業等
53	【行動宣言】フィランソロピー・CSRリンクアップフォーラム（PCLF）	・「フィランソロピー・CSRリンクアップフォーラム（PCLF）」の企画開催（偶数月第2火曜）と幹事会の運営、自主ゼミ「リンクアップ・ジュニア」のサポート ・リンク会員による「災害支援活動」として、発災時にスムーズな連携をするためのネットワークづくり ・テーマを設けてNPO／団体に広く声掛けし、企業と一緒に意見交換できるオープンフォーラムを開催。	企業のCSR・社会貢献・サステナビリティ・ESG・SDGsに関する最新のトピックスを学ぶとともに、各企業の担当者が連携しながら情報交換を行い、現場での「本音」の悩みを出発点にした実践的な学びを進める。	自主
54	「うめきた朝ガク運営委員会」への参画と朝ガクの企画実施	・「うめきた朝ガク」を毎月第4木曜日7:30-8:30に企画運営。 ・「うめきた朝ガク運営委員会」の事務局運営。	出勤前、通学前等の時間帯に集い、ソーシャルな課題や話題を広く知り、共有することを目的に開催。	自主
55	企業市民活動推進センター（CCC）運営委員会	・CCC運営委員会の運営	CCC全体を見渡し、協会の事業間連携と事業収入に繋げる	自主
6. 情報・出版・シンクタンク事業				
56	市民活動総合情報誌「ウォロ」	・市民活動総合情報誌『ウォロ』の企画・編集・発行（年6回）、および購読者拡大	・分野・セクターを越えた社会的課題に「市民が主体的に関わることの大切さ」を伝え、適切にオピニオンを発信し、必要不可欠な情報提供を行う。 ・新しい課題の発見や提言、情報提供を通してボランティア・NPOを一步深め、市民活動を促進して、市民自治と民主主義を成長・発展させることを目指す。	自主・NHK歳末たすけあい助成金
57	【行動宣言】出版	・中央法規出版刊『福祉小六法2023』の編集協力 ・ボランティアリズム研究所『ボランティアリズム研究第5号』の編集と発刊 ・在庫書籍の販売促進	他の出版社からは発行されにくいボランティア・市民活動に関するオピニオン等をまとめ、書籍として出版する。販売収入は協会事業の推進のために役立てる。	自主
58	「増補改訂版 日本ボランティア・NPO・市民活動年表」	・2022年3月末に刊行する『増補改訂版 日本ボランティア・NPO・市民活動年表』の報告会の開催	編集体制を抜本的に強化する体制を整えた上で、『日本ボランティア・NPO・市民活動年表』（初版）の増補・改訂作業を進め、刊行する。	自主（助成金）
59	ボランティア・市民活動ライブラリーの管理運営	・ボランティア・市民活動ライブラリーの定期的な蔵書収集と整理。 ・1980年代の新聞切り抜きのPDF作成とデータベース化の実施。	これまでの市民活動の歴史的資料を集めて散逸を防ぐとともに、現代の市民活動を記録していき、市民活動の研究基盤となることを目指す。	自主
60	【新規】協会ホームページ	・リニューアル後のホームページの運営管理	協会の事業目標達成、および収入拡大に貢献するホームページを戦略的に運営する	自主
61	【拡充】協会公式Facebook、Twitter等の活用	・協会公式Facebook、Twitterの活用 ・協会公式Instagramの導入の検討	協会公式Facebook、Twitter等のSNSを活用し、ホームページと連動して協会の方向力をアップする。	自主
62	「真如苑Shinjoプロジェクト」	・「社会貢献アドバイザー委員会」および「有識者との意見交換会開催事業」の事務局 ・「多摩地域市民活動公募助成事業」および「自立援助ホーム支援助成事業」の助成金事務局	地域発展の一助となることを願い、幅広いニーズに対応しながら市民活動を応援するための助成事業を行う。	真如苑受託

No.	事業名	事業計画	事業目的	財源
63	審議会、研究会、助成審査会、学会役員などへの参画	・依頼があった審議会、研究会、助成審査会、学会役員などへ参画する。	理事長、常務理事・事務局長、事務局員が審議会、研究会、助成審査会、学会役員などへに参画し、貢献するとともに、協会の認知度を高める。	自主
7. 国内外のネットワーク推進事業				
64	「ボランティア推進団体会議（民ボラ）」への参画	・「第39回ボランティア推進団体会議（民ボラ）in東京」の企画運営 ・「ボランティア推進団体会議（民ボラ）」世話人会への参画	ボランティアを推し進めるため、ボランティア活動推進団体やNPO支援センターのミッションや運営のあり方を考え、諸課題を協議する機会を提供する。	自主（参加費）
65	「関西地区大学ボランティアセンター連絡協議会」への参画	学生のボランティア活動推進を図ることを目的として、大学ボランティアコーディネーター集い、事例検討や情報交換を行う場に参画する。	・関西地区大学ボランティアセンター連絡協議会への参画	自主
66	「関西NPO支援センターネットワーク（KNN）」への参画	・関西のNPO支援センターとの情報共有と連携	近隣の間支援組織と平常時はもちろん災害時にもスムーズな情報共有や連携を図ることを目的として、定期的に情報交換を行う。	自主
67	「震災がつなぐ全国ネットワーク（震つな）」への参画	・震災がつなぐ全国ネットワークでの情報共有と連携	災害支援をスムーズに行えるよう、多様な関係団体との関係構築と協働を目的として、ネットワーキングに参画する。	自主
68	「3.11 from KANSAI実行委員会」への参画と震災復興応援イベントの企画実施	・震災復興応援イベント「3.11 from KANSAI 2023」の企画運営 ・「3.11 from KANSAI 実行委員会」の事務局運営	東日本大震災の被災地や全国で避難生活を送る方々に思いを寄せ、シンポジウムや写真展などのイベントを通して「関西から何ができるのか」を考えることを目的とする。	自主（協賛金・寄付金）
69	【行動宣言】「おおさか災害支援ネットワーク（OSN）」への参画	・おおさか災害支援ネットワーク（OSN）の定例会の企画実施（世話役として参画）	災害時に大阪府下での災害支援をスムーズに行えることを目的として、平常時からの多様な主体との関係構築ができる場づくりを行う。世話役として定例会と専門部会の企画・運営を行う。	ろうきんパートナーシップ制度助成
70	大阪府協同組合・非営利協同セクター連絡協議会（OcoNoMiおおさか）への参画	・「2022年国際協同組合デー&OCoNoMiおおさか2周年講演会」の企画実施 ・「第30回ワン・ワールド・フェスティバル」への企画出展 ・OcoNoMiおおさか構成団体の企画への積極的参画	SDGs等の社会的課題への取り組みを大阪府内の協同組合と非営利協同セクターで連携し推進する。	自主（負担金制で運営）
71	「地域子ども支援団体連絡会」への参画	・「地域子ども支援団体連絡会」への参画	地域住民と社協、地域団体、民生委員・児童委員、社会福祉施設、企業・団体などが一体となって、こどもの食や学習の支援をはじめ、子どもたちが身近に行くことができる居場所づくりを推進し、活動者や応援者のネットワークづくりを行う。	大阪市社会福祉協議会主催
72	役員などの派遣	・依頼があった団体等の役員に就任する	理事長、常務理事・事務局長、事務局員が他団体の役員に就任し、貢献するとともに、協会の認知度を高める。	自主
8. 人的な事業推進体制の充実、および財源の確保と財政運営				
73	個人会員・個人賛助会員	・個人会員・個人賛助会員の支援継続と、新たな支援者への働きかけを実施。	協会を支える個人会員・個人賛助会員の制度を維持し、協会に共感し支えてくれる個人の裾野を広げる。	自主
74	会員誌「CANVAS NEWS」	・会員誌「CANVAS NEWS」の定期発行（年6回）	・会員や登録団体に、協会の事業をわかりやすく伝える。 ・協会をよく知らない人に、協会の魅力を伝える。	自主
75	役員会等（理事会、評議員会、評議員選任・解任委員会、監事会）	・理事会、評議員会、評議員選任・解任委員会、監事会の開催	社会福祉法人として、法に則った運営を行う。	自主
76	団体賛助会員・非営利賛助会員	・団体賛助会員の支援継続と新たな支援者への働きかけを実施。	協会の貴重な財源である企業・団体賛助会員への会費依頼を行うとともに、会員とのコミュニケーションを図ることで協会の支援継続を目指す。	自主
77	アソシエーター研修およびアソシエーター活性化のための企画実施	・「アソシエーター基礎研修」の動画コンテンツ制作と集合研修の実施 ・アソシエーターの紹介記事「ボランティアことはじめ物語」の収集とHP掲載 ・アソシエーターの交流促進のための企画実施 ・アソシエーターの意識調査の企画実施	アソシエーターに協会の理念が浸透し、チームや委員会の枠を越えた協働が生まれる意識を作り続けることを目的とする。	自主
78	寄付（一般、事業、災害）	・寄付収入（一般寄付・事業指定寄付・災害支援寄付）の維持・拡大	協会、および協会の事業に共感して寄付として支援してもらう。	自主